

各 位

大阪中小企業投資育成株式会社
取締役社長 岩田 満 泰
(大阪市北区中之島3-3-23)

投資先企業景況アンケート結果の発表

下記の通り、当社投資先企業に対して景況アンケートを実施いたしました。
結果については次頁以下をご覧ください。

調 査 時 点 : 平成23年12月中旬

調査対象先 : 当社投資先企業769社

回 答 数 : 563社

回 収 率 : 73.2%

◇本発表に関するお問い合わせ先
事業支援グループ
石田 哲也
電 話 : 06-6459-1700
メー ル : pr@sbic-wj.co.jp

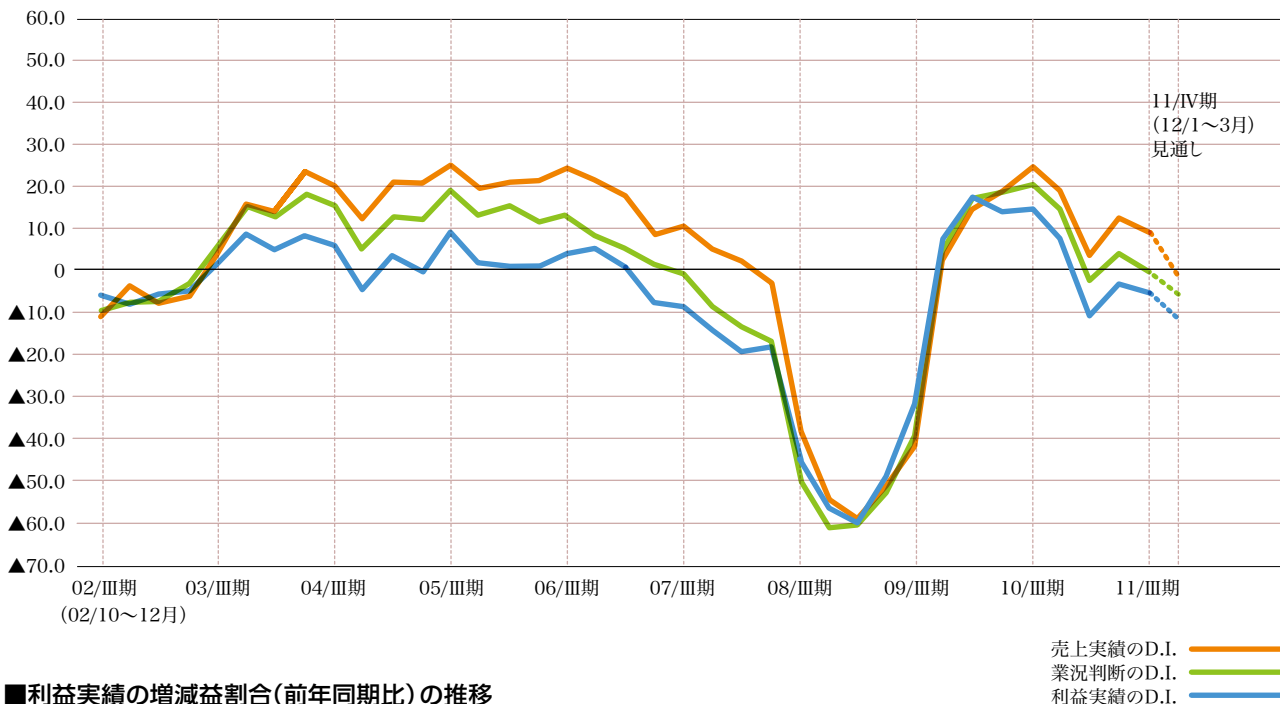
景況は踊り場局面入り、忍び寄る景気減速の影

投資先企業の2011年度第3四半期の景況アンケートによると、

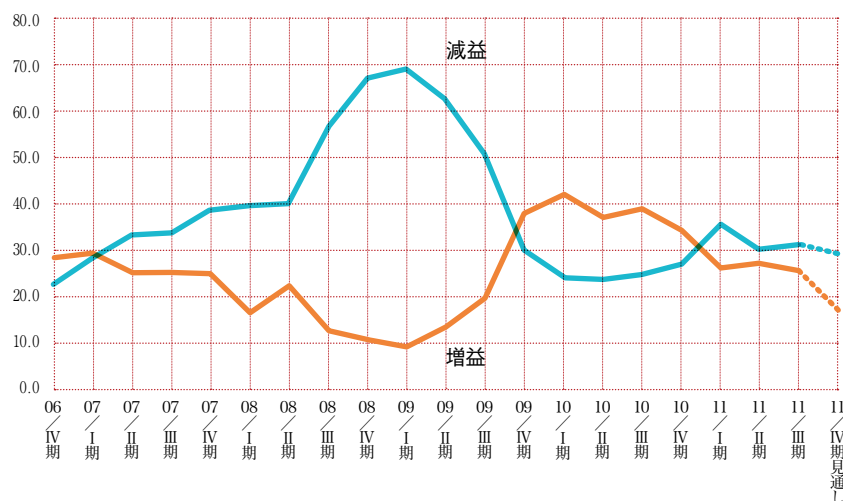
2011年10～12月期の売上、業況、利益の各実績D.I.は2011年7～9月期第2四半期実績を下回る結果を示しました。

2012年1～3月期の見通しD.I.は引き続き悪化を予想し、景況の見通しについて慎重な見方を強めています。

■売上及び利益実績・業況判断のD.I.(前年同期比)の推移



■利益実績の増減益割合(前年同期比)の推移



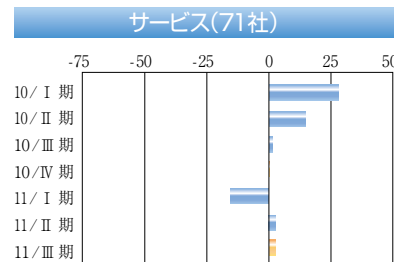
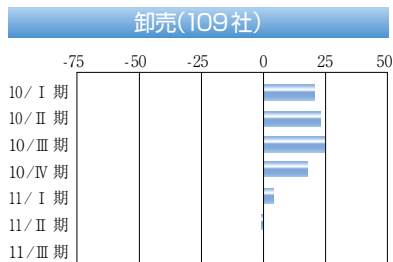
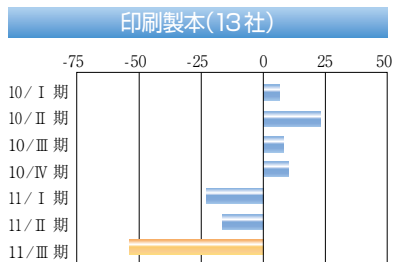
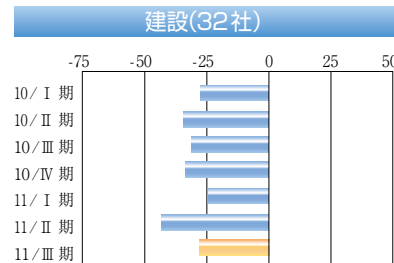
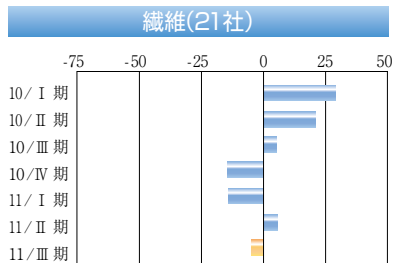
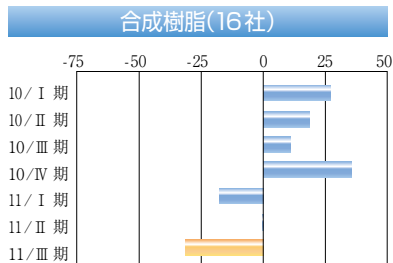
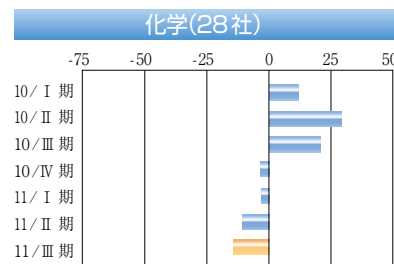
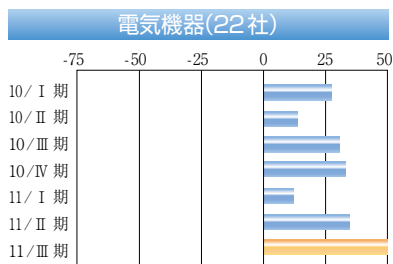
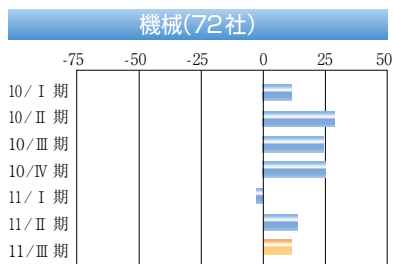
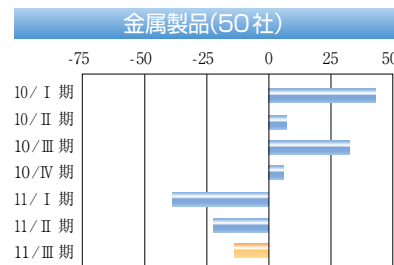
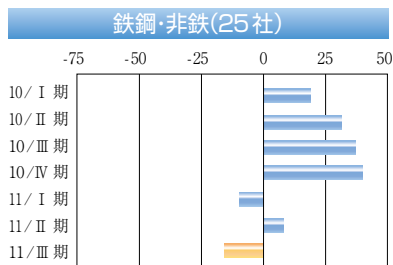
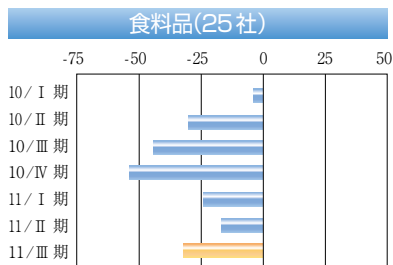
① 2011年10～12月期の売上実績D.I.(増収企業割合-減収企業割合)は前回の12.5から9.2へ、業況判断実績D.I.(好転企業割合-悪化企業割合)は3.9から▲0.2へ、利益実績D.I.(増益企業割合-減益企業割合)では▲

3.0から▲5.9へと、これまで持ち直しの傾向がみられていましたが、再び全てのD.I.が悪化に転じました。震災後の落ち込みから持ち直す動きが見られたところに、昨年夏からの円高や欧州危機によって水を差されたかたちとなりました。

② 利益実績D.I.を業種別推移表で見ると、2011年10～12月期では電気機器、金属製品、建設では改善しました。電気機器業界では、LED照明や電源装置関連など震災やその後の節電、環境に関連する業種で一部好調を維持している企業がみられました。卸売、サービスはほぼ横這いとなりましたが、鉄鋼・非鉄、合成樹脂、繊維などはマイナスに転じ、それらを含む7業種で悪化となりました。

③ 2012年1～3月期の見通しD.I.は、2011年10～12月期の売上実績

■主要業種別利益実績のD.I. (前年同期比) の推移



D.I.9.2から見通しD.I. ▲1.8へ、同じく業況判断D.I.は▲0.2から▲6.1へ、利益実績D.I.は▲5.9から▲11.4を示し、先行きについてさらに悪化を見込み、経営者の心理は弱気に傾きつつあるといえます。

昨年に引き続き、欧州危機に端を発した世界的な景気減速と円高は長期化する気配がみられ、今年に入っても収束する糸口が見えません。景気全体への下押し圧力が企業の経営体力を奪いつつあり、景気減速がさらに広がる可能性が心配されます。

■資金繰り実績のD.I. (前年同期比) の推移

